

# ヤマハ 売上高5.3%増

## 4～9月期 楽器販売中国で好調

ヤマハが一日発表した二〇一七年四～九月期連結決算は、中国での楽器販売が好調だったことなどから、売上高が前年同期比5・3%増の二千九十八億円だった。一方で、海外での一時的な経費が発生するなどしたとして、本業のもうけを示す営業利益は2・9%減の二百二十九億円だった。

(久下悠一郎)

### 決算

純利益は27・8%減の百九十六億円。前年同期に、将来の税金還付を見込んだ「繰り延べ税金資産」を百三十六億円計上していた反動で減益となった。

主力の楽器事業は、売上が4・4%増の千二百四

十二億円。弦のアコースティックピアノや電子ピアノは、中国での売り上げの伸びが大きくけん引した。管楽器は日本や中国で、ギターも中国を中心とするアジアで好調だった。

その半面、楽器の営業利益は百六十六億円と11・5%減だった。北米の大手量

販店で在庫の残りが多かったことや、欧州での店頭販売の条件を巡ってリベートを追加で支払う必要性が生じたことなどが響いたとい

「真面目なこと楽しむ」が上昇のカギ

算も増えているという。



なぜ、中国で楽器が売れるのか。ヤマハの川瀬忍常務執行役は決算発表で、意外な角度からの分析を披露した。

中国共産党の新しい最高

指導部を紹介し、二期目に入った習近平総書記(国家主席)の存在。汚職撲滅を進める中で、芸術やスポーツといった活動を振興する機運が全体的に高まっているのだとか。政府の教育予

う。音響機器事業は、売上高が8・6%増の五百七十六億円、営業利益が7・1%増の五十二億円。オーディオ機器が堅調だったほか、業務用の「PA機器」も中国をはじめとする新興国での販売が好調だった。

楽器事業での減益について、川瀬忍常務執行役は「一時的なもので、回復できる」と強調。営業利益を過去最高の五百億円と見込む一八年三月期の業績予想は、今年八月の公表時から据え置いた。

「真面目なこと」を楽しむという風潮が、「楽器の売り上げの上昇につながっているのでは」と川瀬氏。現地での生産が追い付かず、インドネシアやインドに工場を新設する構えだ。

個人向けにはギターといった楽器も好調で、「ヤマハのピアノのブランドイメージがあるからこそ」と川瀬氏。謙虚に語る口調もまた、真面目そのものだった。

(久下悠一郎)

### ヤマハの売上高と純利益の推移 (4～9月期)

